

箱根山の火山活動解説資料（平成 25 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
2009 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 3-①）

宮城野（大涌谷の東北東約 3 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは 100~200m で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 3-②、図 4）

箱根山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3-③④⑤）

GPS 連続観測及び湯河原鍛冶屋に設置している体積ひずみ計¹⁾による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変化は認められませんでした。

1) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。



図 1 箱根山 早雲地獄の状況
（11 月 22 日、宮城野遠望カメラによる）
白円内は早雲地獄からの噴気。
気象庁の宮城野遠望カメラでは、大涌谷からの
噴気は高さ 100m 以上の場合に観測されます。



図 2 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図
・赤丸は宮城野遠望カメラ設置場所

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 12 月分）は平成 26 年 1 月 14 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

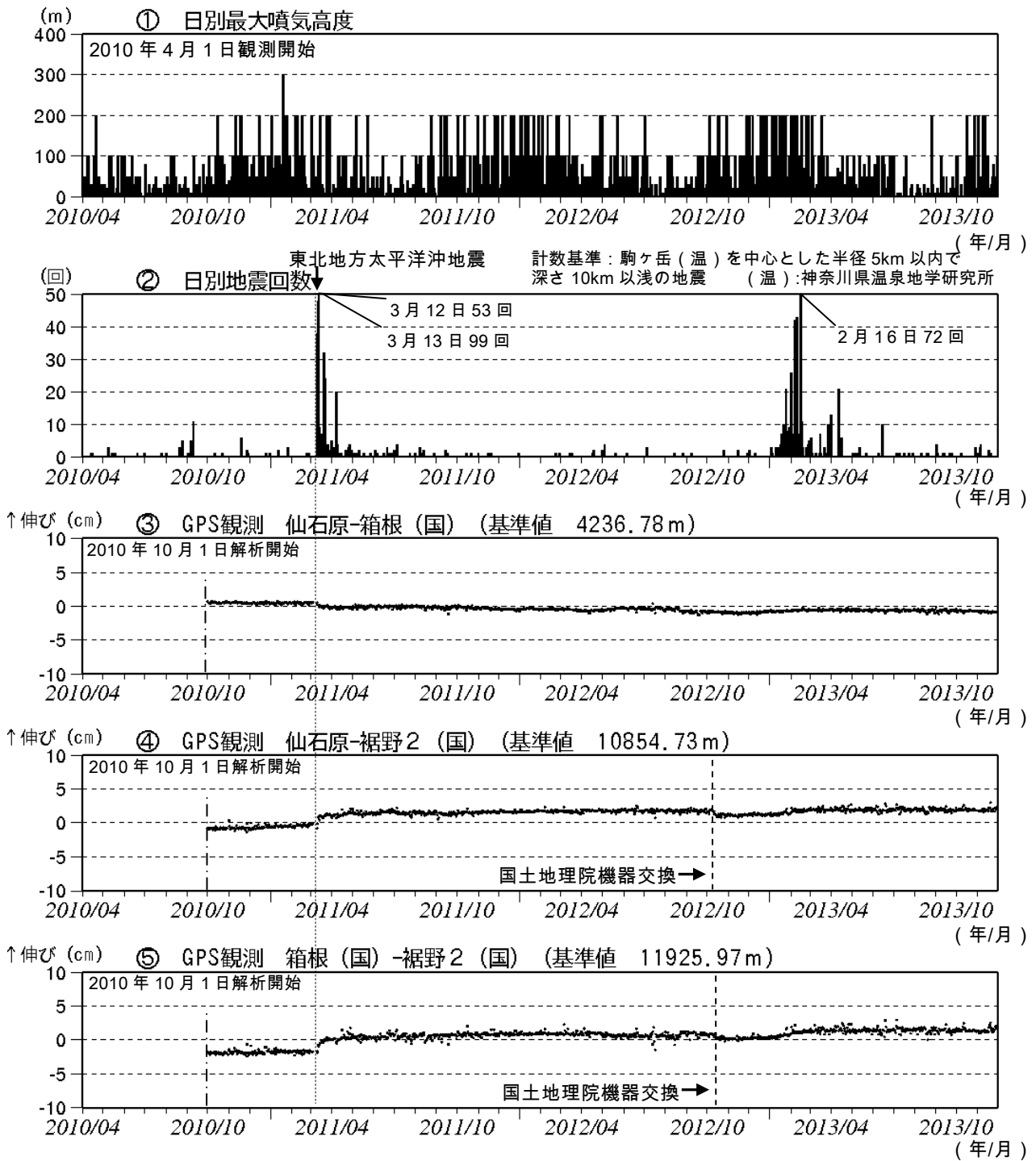
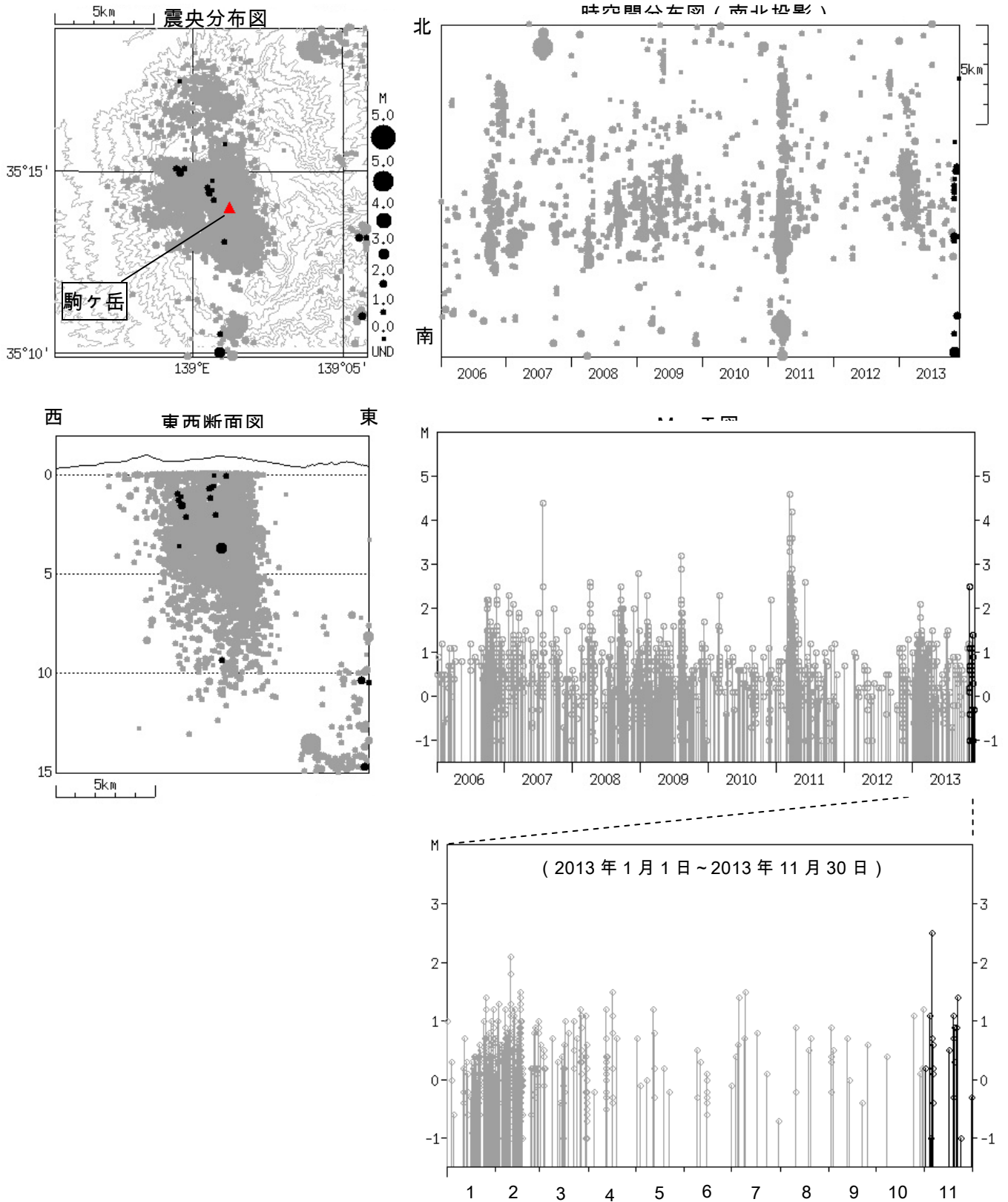


図3 箱根山 火山活動経過図 (2010年4月1日~2013年11月30日)

- ① 定時観測 (09時・15時) による早雲地獄の日別最大噴気高度
- ② 箱根山付近で発生した日別地震回数
 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、箱根山付近で地震活動が活発となりました。その後、地震活動は低下していましたが、2013年1月中旬から2月中旬にかけて、箱根山から仙石原付近の浅部で地震回数が増加しました。
 先月より計数基準を変更してグラフ表示をしています。(旧基準：駒ヶ岳 S-P 時間 1.5 秒以内)
- ③~⑤ GPS 観測による基線長変化 (国)：国土地理院
 ④⑤の基線には、東北地方太平洋沖地震 (2011年3月11日) に伴うステップ状の変化がみられます。また、2012年末頃から2013年2月下旬頃にかけてわずかな伸びの傾向がみられました。
 ③~⑤は図5のGPS基線③~⑤に対応しています。
 グラフの空白部分は欠測を示します。



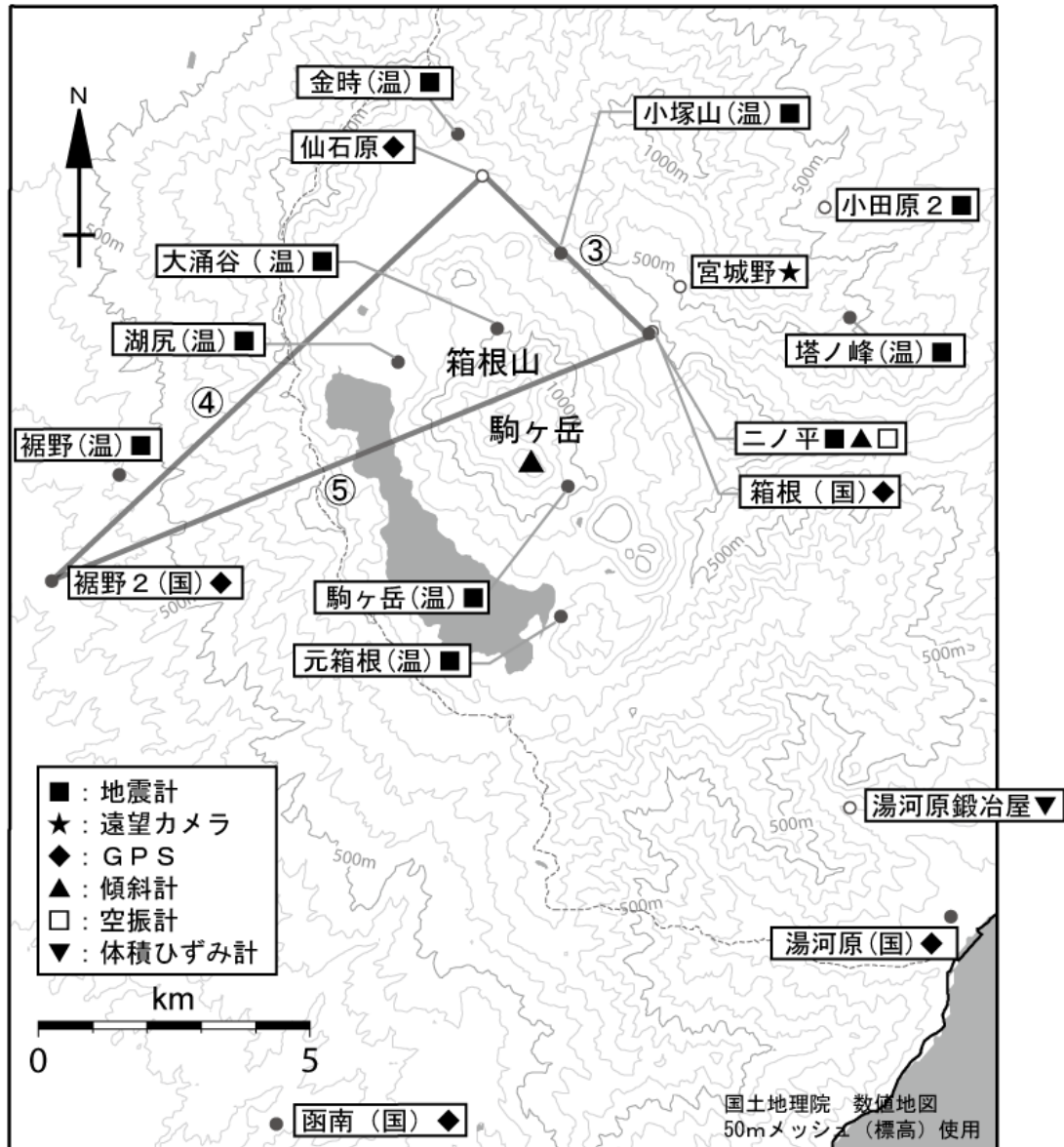
● : 2006 年 1 月 1 日～2013 年 10 月 31 日 ● : 2013 年 11 月 1 日～30 日

図 4 箱根山 広域地震観測網による山体・周辺の震源分布図（2006 年 1 月 1 日～2013 年 11 月 30 日）

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

2013 年 1 月中旬から 2 月中旬にかけて、駒ヶ岳から仙石原付近の浅部を震源とする地震が増加しましたが、その後地震活動は低下し、今期間、地震活動は静穏に経過しました。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(温)：神奈川県温泉地学研究所

図5 箱根山 観測点配置図

GPS 基線③～⑤は図3の③～⑤に対応しています。